

「取組の成果（仮称）」のまとめに掲載すべき項目について アンケート結果

【アンケート配布先】

日本内分泌攪乱化学物質学会理事及び評議委員（123）
日本環境毒性学会役員（27）
環境省内分泌攪乱化学物質問題検討会委員（27）
環境省委託事業研究者（86）
戦略的創造研究推進事業研究代表者（17）
文部科学省特定領域研究グループ（7）
内分泌かく乱化学物質問題関係省庁課長会議メンバー（11）
延べ：298名 送付数：203部

【集計結果】

アンケート送付 : 203
・ 回答数 : 129 (回答率63%)
 意見有 : 83
 意見無 : 46
・ 無回答 : 74

【項目】

(回答数)

- | | |
|--|----|
| 1. 哺乳類を用いた人健康への内分泌攪乱作用に関する試験において、19物質については低用量での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。 | 19 |
| 2. 2物質(ノニルフェノール、4-t-オクチルフェノール)については魚類への内分泌攪乱作用を有することが強く推察された。 | 18 |
| 3. 魚類を用いた生態系への内分泌攪乱作用に関する試験において、17物質については明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。 | 17 |

- 4 . 平成 1 0 年度から平成 1 4 年度までに 5 回の国際シンポジウムを開催、OECDの試験法開発に参加するなど国際的な情報交換、協調を図った。 1 6
- * OECDとの協力：平成 1 3 年度からげっ歯類による子宮肥大試験及びげっ歯類による前立腺肥大試験に関するOECDの試験法開発・標準化に参加
 - * 平成 1 4 年度から魚類に関するOECDの試験法開発・標準化にリードラボとして参加
 - * 日英共同研究：平成 1 1 年度から平成 1 5 年度までに 4 回のワークショップを開催
- 5 . 母体血と臍帯血における植物エストロジェンは有意な相関がみられ、母子間の移行が確認された。 1 3
- 6 . 停留精巣に内分泌攪乱化学物質が影響している可能性が非常に低いことを公表。 1 1
- 7 . 尿道下裂とビスフェノール A の関係を調査したが、現在のところ関係は見いだされていない。 7
- 8 . リガンドが既知のヒト核内受容体 2 3 種類について調べたところ、ノニルフェノール等が複数の受容体に反応することが判明。 6
- 8 . 野生生物影響実態調査では、化学物質への暴露と影響（奇形率等）関連を示すデータはない。 6
- 1 0 . 1 0 種の猛禽類を対象とした繁殖影響調査を実施。野外の 4 4 死亡個体及び孵化しなかった 6 卵の分析を行ったところ、死体・卵共にPCBやp,p'-DDEが高濃度のものが認められた。甲状腺、肝臓、腎臓で軽度の異常が認められたが化学物質の蓄積状況との関係を確認するには至らなかった。 5
-
- 1 1 . DESはチロシンリン酸化酵素を介する細胞内シグナル伝達系を介してセルトリ細胞間の接着構造の形成異常を引き起こすことが強く示唆された。 4
- 1 1 . 韓国沿岸でイボニシの生殖異常に関して環境実態調査を実施。広範囲にインボセックスの出現が見られた。 4
- * イボニシと有機スズ（ 4 ）、アワビと有機スズ（ 1 ）

【その他の意見】

調査結果について

- ・これまでの調査結果、環境中での検出状況まとめについて
- ・メダカの性決定遺伝子の発見について
- ・内分泌攪乱化学物質の着床前暴露の影響について
- ・哺乳類への低用量投与による作用について
- ・スチレンダイマー、スチレントリマーの影響について 等

試験方法の開発について

- ・無脊椎動物、両生類、鳥類等について開発した試験方法とその有用性
- ・スクリーニング法やマイクロアレイ法を用いた評価について 等

自然由来の植物ホルモン等による内分泌攪乱作用について

- ・植物、人畜由来の影響について 等

海外の主要な成果について

ダイオキシン類の内分泌攪乱作用について

- ・妊娠ラットへの投与による雄性子への影響について 等

リスク評価について